

# ② レベル4自動運転移動サービス実装に向けたロードマップ

年度	2020年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
実証実験 通年運行	<p>【初の走行実証】 駅・空港間の公道にて、L2での自動運転車両の走行実証を実施し、当該ルートにおいて自動運転走行できることを確認</p>  <p>20年9月</p>	<p>【自動運転システム等の検証】 駅・空港間の公道にて、3Dマップ作成やリスクアセスを実施。小型低速の車両を用いたL2での自動運転走行を行い、社会実装時に使用を予定する自動運転システムにより7割の区間で自動運転走行を行う。遠隔監視システムの適切な動作も確認</p>  <p>23年3月</p>	<p>【L2通年運行に向けた試験】 駅・空港間の公道にて、L2通年運行で使用する車両を用いた長期試験走行を実施。信号連携を導入し、試験最終日には9割以上の区間で自走運転走行を実施。3月9日より有償の路線バスとして通年運行を開始</p>  <p>23年10月～ 24年3月</p>	<p>【L4に向けた走行実証】 システムやセンサの向上を図るとともに、信号連絡の拡大や通信調査を行う。また、回送ルートの自動運転対応も実施</p> <p>【L2通年運行の改善】 路線バス運行を通じて課題を洗い出し、システム面や運用面での改善を図る</p>  <p>24年4月～ 25年3月</p>	<p>【L4に向けた走行実証】 システムやセンサの向上を図るとともに、各種課題についての対応を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細工町交差点右折に向けたレーンチェンジへの対応</li> <li>・ 細工町交差点右折への対応</li> </ul> <p>【L2通年運行の改善】 路線バス運行を通じて課題を洗い出し、システム面や運用面での改善を図る</p> 	<p>【L4通年運行の体制構築】 車両面のほか、L4路線バス通年運行に向けた運用体制を構築</p>
	許認可申請			<p>24年1月</p>  <p>【緑ナンバー取得】 運賃を有償化するために、緑ナンバーを取得</p>	<p>25年3-4月</p> <p>【L4許認可に向けた手続き】 公道走行WGによる検証や第三者評価を経て、走行環境条件付与の申請を行う（走行ルートの一部区間）</p>	<p>【L4許認可に向けた手続き】 駅・空港間の走行ルートの全体について、走行環境条件付与。特定自動運行許可についての手続きも実施</p>

走行ルート全体についてレベル4認可を取得

レベル4自動運転移動サービス実装

## ② レベル4自動運転移動サービス実装に向けたロードマップ(今後の詳細)

### (1) 一部区間(公道走行WGでの検証範囲)でのレベル4走行に向けた取組項目 [当面の取組事項]

取組項目	実施状況・予定	備考
公道走行WG	済	
安全性評価	済	・公道走行WGの指摘事項に基づく追加評価
整備者の自動車特定整備事業の認証取得	済	・道路運送車両法第57条
走行ルート全体の信号情報連携対応	R7.3完了予定	
特定自動運行中である旨を表示する機器設置	R7.5完了予定	・道路交通法第75条の20 第2項 ・保安基準を踏まえ、適切な方法で設置を行う
走行環境条件付与の申請(北陸信越運輸局)	R7.3-4予定	・道路運送車両法第40条
特定自動運行許可の申請(石川県公安委員会)	R7月上旬	・道路交通法第75条の12

### (2) 走行ルート全体のレベル4走行に向けた取組項目 [R7からの取組事項]

- 右折に向けたレーンチェンジ及び細工町交差点右折を安定的に実施するための技術向上・改善
- 上記技術向上・改善を踏まえレベル4認可を再取得(安全性評価、公道走行WG、走行環境条件付与、特定自動運行許可)

### (3) その他 必要な取組項目 [走行環境条件の緩和・自動選手範囲の拡大に向けて]

- 緊急自動車の接近対応
- 路駐車回避機能
- 路面が不安定な状態での走行対応(雪・凍結)
- 回送ルートの自動運転走行の安定化(システム調律) など